

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 理事長挨拶…………… 1
- 新春雑感…………… 2-3
- 理事会報告／消費税取り扱いの報告会 …… 4
- 国際書籍展一覧…………… 5
- 楽譜のオハナシ⑧ …… 6

理事長挨拶

明けましておめでとうございます。

2012年の年頭にあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

多難な2011年もようやく終わり新年がスタートいたしました。2011年は我が国にとって歴史に残る1年となりました。東日本大震災がもたらした甚大な被害と破壊された原発が次世代にも及ぶ放射能汚染の恐怖をもたらしました。日本はこの未曾有の危機をどのように乗り越え復興していくのか、長引くデフレによる閉塞感が増すなか、更に国民に重く押し掛かっています。また嵐は国内にとどまることなく、経済においてはユーロ圏で表面化したソブリン危機がいまだ解決しておらず、北アフリカ、中近東の政情不安、更には米国でも財政再建を阻む政治の機能不全が目立っています。中国、インド、ブラジル、ロシア等の存在感が増し、新興国の成長が世界経済を牽引する状況となっています。世界の政治経済文化の基準が大きく変わり始め、西洋キリスト教文化に変化の兆しが起こりはじめたと私は感じております。日本が今後これらの変化を通じどのように世界各国と共存を図っていくかが求められています。

そのような中であって当業界は日本の文化と科学技術の発展のために過去から今日に至るまで大いに尽くしてきたことは会員の皆様のみならず、研究者や学識者の方々にも我々の貢献について認識されているとっております。時代は変わり世界経済のグローバル化とインターネットを通じた情報流通革命が我々の存在価値を揺るがしていることはご存じの通りです。当業界は今日まで国家による保護規制なしにお客様に必要なサービスと商品を提供し続けてきた歴史について大いに誇りを持っております。しかしながらこの情報流通革命を通じてこれから何が求められているか、特に次世代のお客様に求められる商品やサービスを新たに開発し提供することが、これから当業界が生き残っていくため



理事長：山川隆司

の必須条件であると思います。総論を述べるのは簡単ですが各論に入ることは各社銘々に事情が異なり容易なことではありません。

当協会のミッションの一つとしてこの変化を的確に捉え会員が必要とされている教育（セミナー・勉強会の開催）や情報活動に加え、電子商品やサービスに対する課税・不課税問題、著作権管理等の問題、そして国際活動の強化など課題は山積しております。限られた時間と財源を有効に活用して一步一步着実に前進していきたいと願っております。どうか会員の皆様にご理解とご協力をこの紙面を借りてお願い申しあげる次第です。

最後に会員の皆様のご健勝と発展をご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

2012年1月1日

理事長 山川隆司

新春雑感

副理事長:宮川 修(日本出版貿易株式会社)

明けましておめでとうございます。日本経済は昨年3月の東日本大震災後の停滞を脱し、回復の途上にある。だが、ギリシャの債務危機を背景に金融市場が動揺、欧米景気の減速など世界経済の変調が新たな不安として浮上している。1ドル=70円台の円高長期化も企業収益の重荷となる。多くの企業は、今3月期の収益について東日本大震災の影響などによる上期の不振を下期に挽回する「下期回復型」の計画を立て直した途端、タイの洪水が発生、再び業績の重みとなり、前途多難な年明けとなった。そんな中で明るい話題も、昨年7月の女子ワールドカップサッカーでなでしこジャパンの快挙。決勝戦における最後のPK戦前の円陣で、佐々木監督がメンバーに笑顔で話していたのが非常に印象的だった。厳しい状況のときこそリーダーは物事を前向きに考え、明るく振舞うべきだ。澤穂希選手の活躍も言うまでもなく、苦しいときこそ私の背中を見なさいと、後輩に声をかけたそうで、自分も苦しいけれど、頑張っている。そんな先輩なら、多くを語らずとも大勢の人がついて行きたくなる。我々の業界もなでしこにあやかりたい。

理事:Mark Gresham (U.P.S.)

A year ago I wrote about “change” and about “being tested.” How was 2011 for you? As I thought it would be, “change” was certainly a major theme for me. One publisher with whom we have worked for many years told us in Frankfurt that they would be publishing only 1/3 of their new titles in print form in 2012 – the rest would be in digital format only. As I write this I am in the second day of listening to presentations about digital publications and how we might get involved. The word “opportunity” keeps popping up. I’m still not sure I can see quite as clearly as our presenters or as well as many of the others in the room, but I’m willing to give it my best effort. Print is not dead. I think it’s not even dying. But there are new things growing and our continued survival requires that we pay attention to them. Happy New Year – and Good Luck!

理事:土方 裕之(丸善株式会社)

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願い申し上げます。

さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、決して忘れることのできない大変ショッキングな出来事でした。私の親族

が岩手県におり、7月に行われた法事の際に、津波の被災地である、釜石と陸前高田を訪れました。釜石の“瓦礫の山”、陸前高田の“海の中のスタジアム”、高田松原に残された“一本の松”は、何度か訪れたことがあっただけに、まさに“絶句”する状況でした。このような災害が二度と起こらないことを強く願うとともに、被災地の皆様には、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

この震災の影響で多くの外国人のビジネスマンや留学生が帰国され、また、海外からの来訪者も減少したことから、昨年の洋書の販売にも大きな影響がありました。一日も早く回復をして欲しいものです。また、大学等におきましては、今後の復興予算の図書資料費への影響も懸念されており、今後注視してゆく必要があると思っております。

昨年は、洋書協会70周年という節目の年でした。震災後の時期でもあり、開催の是非についても議論がありましたが、過度な自粛ムードは払拭したほうが良いということで、7月に、予定通り記念行事が開催されました。日本における洋書の普及、洋書協会の発展に貢献をされてきた諸先輩から会員各社で活躍されている若手の皆様まで、200名を超える方々に参加いただき、大変有意義な時間を過ごすことができたものと思っております。時代は変わり、提供するコンテンツの形やサービスの方法が変貌して行く中で、これからの洋書業界は前途多難ではありますが、時代に即した海外の知の提供を通して日本の文化に提供するという志は、継承してゆかねばならないし、こうしたつなぎをしてゆくことが協会のミッションの一つであろうと思いました。実行委員の皆さま、大変ご苦労さまでした。

10月には、久しぶりにフランクフルトブックフェアに参加する機会をえました。出版社の電子書籍への対応は大手の出版社はもとより、中小の学術専門出版社においてもかなり一般化してきているのが実感です。大手の学術出版社の中では、Springer社が“Book will never die”と宣言し、これからは印刷体での出版は行わず、新刊タイトルはもとより、過去に遡ってバックタイトルを全てデジタル化して提供するとともに、印刷体需要に対しては、最適な拠点においてプリント・オン・ディマンドで対応するモデルを進行してゆくというのが大変印象に残りました。こうしたモデルが進行してゆくと、近い将来、世の中から“絶版”と“返品”という概念がなくなってゆくのでしょうか。

昨年の外雑商戦においては、電子ジャーナルの不課税問題が騒ぎとなりました。消費税の引き上げも確実視される中で、これからの洋書ビジネスも含め、大きな転換期を迎えることになりそうです。経済状況も相変わらず不透明な中で、情報流通の変化や税問題等、今年も対応すべき課題満載の年に

なりそうですが、新年にあたり、あらたな気持ちで臨んでゆきたいと思います。

会員各社の皆様におきましては、2012年が良い年になりますことを祈念いたします。

理事:仲 光男(株式会社雄松堂書店)

「近藤文化庁長官のご講演から思うこと」

明けましておめでとうございます。

昨年は洋書協会創立70周年という節目の年でありました。文化庁長官近藤誠一氏をお迎えし「文化:日本復活の鍵」と題する記念講演会が開催されました。これからの日本にとって何が最も大切なことか?ますますグローバル化する世界の中で「日本」はどう生きるべきかをご自身の体験を通してお示しいただいたとても印象に残る良いお話でしたので、ご紹介させていただきます。氏はご講演の中で、日本はGDP第3位、経済競争力6位、平均寿命1位、犯罪率の極めて低い安全な国で、外国人のだれが見ても「すばらしい国、幸せな国」であるはずなのに、国民満足度(=幸福度)は、90位に低迷している。自分の国に自信がなく「経済」という狭い窓で人生を判断してしまうのは何故なのか?それは言い換えれば、心の豊かさを与えてくれる「文化・芸術」を贅沢とかお金にならないものとして、おろそかにしてきた結果ではないか?と問いかけます。

そして「文化」の4つの機能、すなわち①個人の力(幸福や感動を与える)②社会的役割(社会の活性化)③経済効果(地域活性化)④国際性(言葉の壁を越え相互理解を深める力)を挙げ、国がいろいろな外交や国際交流を進めてゆく上で、軍事力や経済力などハードパワーとは異なる「文化・芸術」のソフトパワーこそが、これからは大変重要である。そして「文化・芸術」を広く世界中に伝えるものが書籍(=情報)であるわけですから、私たち洋書協会の役割も引き続き大切であると位置付けていただきました。そして、どんなテーマでもよいので、「文化」というものを自分の人生の柱の一つにするように、一人一人が心がけることによって日本全体が元気になってゆくと確信し、それがこれからの「日本復活の鍵」ではないかと熱く語っていただきました。おりしも、平成24年度文部科学省概算要求を見ると、「地域発・文化芸術創造発信イニシアティブ(新規30億)、ミュージアム国際発信事業(新規21億)メディア芸術発信支援事業(新規13億)が概算要求に計上されています。日本も少しずつではあるが、心豊かな活力ある社会と文化芸術立国の実現を目指しはじめたことは確かであり、大変喜ばしいことであると思っています。また、氏は日本人の心のあり様について『文楽阿漕浦』を取り上げて日本人の心の深層にふれられていますが、紙面の関係で割愛させていただきました。

本講演会全記録は、洋書協会ホームページで読むことができます。

改めてお目を通していただければうれしく思います。

<http://www.jaip.jp/jp/info/70th/20110715lecture.html>

理事:鶴 三郎(株式会社 東亜ブック)

あけましておめでとうございます。皆様の多大なるご協力によりおかげさまで昨年7月の協会発足70周年記念イベントが盛大に執り行われましたことをあらためてお礼申し上げます。私自身も2012年に70歳となりますが、ますます皆様が楽しんでいただけるパーティー、行事を引き続き取り組んで参りたいと思っています。レクリエーション委員会と名称変更して3年目になりますがより多くの皆様に参加できるように委員会内はもちろんのこと参加者の方々から意見をいただき、参考にさせていただいております。特にボウリング大会につきましては当初年3回の開催でしたが、参加者も増え、若い方の参加も多いので今では年4回開催しております。毎回、ボウリング大会終了後の親睦会にはほぼ全員の方が参加され、普段ではあまりできない意見や質問が飛び交い、毎回時間を忘れるほど皆様楽しんでいただいております。今後もこうした意見交換や会話の場所を提供することで協会の発展にお役に立てれば光栄です。2012年も皆様多数のご参加お待ちしております。

理事:松村 達生(センゲージ ラーニング株式会社)

あけましておめでとうございます。洋書協会の皆様にとって良い年になりますこと、お祈り申し上げます。今期より、推薦理事として理事会に参加させていただいております、センゲージラーニングの松村と申します。この場をお借りしまして、ご挨拶申し上げます。今までは、洋書協会の活動といっても、懇親会ぐらいしか、参加しておりませんでしたので、今回重責のあるポジションにご推薦いただき、今後は洋書業界活性化のために、邁進していく所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。弊社は外国資本のパブリッシャーの立場として、協会に参加させていただいておりますが、私どもの立場にて協会及びこの業界に何ができるのか、模索しております。前回、小松崎さんは推薦理事として、女性経営者の会を立ち上げ、協会での女性の存在を確固たるものにされました。パブリッシャーの立場として、今後いろいろと考えていきたいと思っています。話は変わりますが、先日、仕事で中国の図書館を回り、いろいろと話を聞く機会がありました。中国の大学図書館予算は毎年平均して5%増加しているとのこと。特に主要大学や国立図書館は、海外資料購入に積極的に動いています。

また、資料購入と同時に、所蔵資料のデジタル化を活発に進めています。デジタル化の価格は日本の四分の一程度、デジタル化に際してもメタデータを完備し、本格的にそれも短期間で、デジタル化を実行している大学が多いようです。また、電子書籍のマーケットも活発で、日本より導入が随分進んでいる印象でした。日本は先進国で成熟したマーケットですが、中国はまだ発展途上、ただし、とてつもないスピードで進化しています。経済においても、学術においても日本をあとという間に追い抜いてしまうのではと思っています。日本が中国に負けないように、海外パブリッシャーとして、何かできればよいのですが。本年もよろしくお願い申し上げます。

理事会報告 (2011/11/28、16:00 ～、ユサコ会議室)

1. 予算推移報告

10月までの報告が事務局からあった。ほぼ予算通りに推移しており、了承された。

2. 委員会構成の変更案

下記組織変更案が総務委員会から提出され、了承された。

・総務委員会——総務グループ

- ├ HP・ダイレクトリーグループ(事務局、総務 G)
- ├ 文化・教育グループ(仲理事・総務 G)…注)
- ├ 渉外
- └ SIG(E-コンテンツ流通研究会)

・会報委員会

・事業委員会

・レクリエーション委員会

注 *文化・教育グループは総務委員会に移管

*会員・会員社員の文化活動・教育活動に関し、外部機関のセミナー等を照会し、その参加費を補助する方法も一案である

3. 電子商品取引の消費税不課税に関する件

下記提案が総務委員会から提出され、了承された。

(1)先の事前照会に対し11月14日付で、東京国税局から「文書回答に該当しない」との連絡があった。

(2)(1)について、JAIPの会員に報告書の送付、及び不課税対応の説明会を開催する。

*開催日時は12月7日(水)とする

*依田会計事務所に講師を依頼する

*会員には事前に要点を報告し、当日はQ and Aを中心の形式と取る

4. JAIP ホームページについて

下記提案が総務委員会から提出され、了承された。

次の理由により会員限定のページを作り、PWを設ける。

*今回の不課税対応等、会員のプライオリティーを担保し、また、会員向け各種行事開催や、記録写真等の掲載をするにあたって機密の保持をする必要がある。

5. 理事長より

- ・理事長公選の可能性について総務委員会に諮問する
- ・次回のSIGは東京で開催予定
- ・ホームページにニュース欄を作る

以上

消費税取り扱いの報告会

去る12月7日(水)にTKP新橋ビジネスセンターにおいて説明会を行った。当日は当初の想定を大幅に超える60名近くの参加者があり、2回も会場を変える盛況ぶりで会員の関心の高さが窺えた。山川理事長の挨拶の後、長谷川総務委員長の司会で始まった。

最初に協会が東京国税局に提出した「取引等に係る税務上の取扱い等に関する照会」(同業者団体等用)について文書作成を担当した依田公認会計士税理士事務所の犬竹氏から説明があった。

続いて具体的な事例を中心にQA方式で進められ、

予定の時間いっぱいまで活発な質疑・応答が行われた。詳細はホームページで公開する予定。(事務局)



International Book Fair in 2012

International Book Fair in 2012

Name of Fair	Date	Place	website/e-mail
Taipei International Book Exhibition	2/1~6	Taipei	http://www.tibe.org.tw info@tibe.org.tw
Abu Dhabi International Book Fair	3/28~4/2	Abu Dhabi	http://www.adbookfair.com/ info@adbookfair.com
Leipzig Book Fair	3/15~18	Leipzig	http://www.leipziger-buchmesse.de info@leipziger-buchmesse.de
Salon du Livre Paris	3/16~19	Paris	http://www.salondulivreparis.com livre@reedexpo.fr
Bologna Children's Book Fair	3/19~22	Bologna	http://www.bookfair.bolognafiere.it dir.com@bolognafiere.it
London International Book Fair	4/16~18	London	http://www.londonbookfair.co.uk LBFTeam@reedexpo.co.uk
Seoul International Book Fair	6/20~24	Seoul	http://www.sibf.or.kr/eng/ danapark@kpa21.or.kr
BookWorld Prague	5/17~20	Prague	http://www.bookworld.cz info@svetknihy.cz
Warsaw International Book Fair	5/10~13	Warsaw	http://www.bookfair.pl/ mtk@arspolona.com.pl
BookExpo America	6/5~7	New York	http://www.bookexpoamerica.com inquiry@bookexpo.america.com
Special Libraries Assn. Annual Conference	7/15~18	Chicago	http://www.sla.org sla@sla.org
American Libraries Assn. Annual Conference	6/21~26	Anaheim, CA	http://www.ala.org ala@ala.org
Tokyo International Book Fair	7/5~8	Tokyo	http://www.bookfair.jp tibf@reedexpo.co.jp
Hong Kong Book Fair	7/18~24	Hong Kong	http://hkbookfair.tdctrade.com exhibitions@tdc.org.hk
Moscow International Book Fair	9/5~10	Moscow	http://www.mibf.ru mibf@mibf.ru
Beijing International Book Fair	8/29~9/2	Beijing	http://www.bibf.net/ bibfmo@bibf.net
Frankfurt Book Fair	10/10~14	Frankfurt	http://www.book-fair.com/en/fbf/ info@book-fair.com
CIROBE	10/24-27	Chicago	http://www.cirobe.com info@cirobe.com
Salon du Livre Montreal	11/14-19	Montreal	http://www.salondulivredemontreal.com slm.info@videotron.ca

『アポロンへの賛歌』から

アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧

ギリシャアポロン神殿の倉庫の石壁に「アポロンを讃える」詩が刻み込まれています、世界で一番古い楽譜です。ギリシャ語の歌詞の上に記号が刻まれているものです、この記号は『音高』音の高さを指定するもので、紀元前二世紀半頃に刻まれたものと言われています。アポロンへの賛歌には『音高』しか指定されていませんが、小アジアのトラレスで発見された同じような楽譜の歌詞には『音高』だけでなく、リズムやアクセントとみられる文字や記号(注1)が刻み込まれ前二世紀から前1世紀に書かれたものとされています。これら楽譜は古代ギリシャの記譜体系に基づいて表記され40数曲ほど発見されていますが全て断片で曲の全体は判りません、しかし、記譜があることで解読され現代記譜に翻訳され、演奏も試みられています。

古代ギリシャの記譜法は使用されなくなり消えてなくなりました、記譜法はなくなり中世に影響を与えていませんが古代ギリシャの音楽文化、音楽理論、音楽思想は中世に受け継がれ現代に至っております。

古代から中世にかけてヨーロッパの文化はユダヤ教文化からイエス時代を経てキリスト教文化が大きく花開くことになります。四世紀から五世紀にかけてゲルマン民族の大移動があり多くの地域で国が創られ、教会が建てられキリスト教は広まって行きました、宗教、政治だけでなく建築や美術の世界でもゲルマン系民族が西欧を支配するようになり民族文化も固有の成長を遂げていきます。音楽の世界では、中世の区切りをどこにするかで色々と論議があるようですが古代ギリシャ時代に確立された『音高』に関わる原理はずっと否定されることなく引き継がれています。六世紀にボエティウス(Boethius: c475-524)が『音楽教程』で古代ギリシャの音楽理論を紹介しています、中世の基本的な音楽理論書となっています。

『ピュタゴラスの音律』についてはピュタゴラス(注2)が街角の鍛冶屋から聞こえてくる槌音の響きが心地良い場合とそうでない場合があることに気がつ

きこれを分析して発見と言われています。アルキメデスの比重の発見に似たようなお話です。重量或は長さが1対2の場合はオクターブ(ギリシャ語ではディアバソン)、2対3では完全五度(ディアペンテ)、3対4の時は完全四度(ディアテッサロン)で心地よい響きの音(完全協和音)が作られることをつきとめていました、これを『ピュタゴラスの音律』と言います。古代ギリシャでは音の物象と数学、幾何学、天文学の関連が調和するという事で音楽(ムーシケ)を加えた四つの学問をマスターすることが知識人として必須になっていました。これは中世以降に大学が誕生した際の自由七科にこの四つの学問が入っています。なぜか美術は入っていません。

中世になりキリスト教が各地に定着していきますが数多くの宗派が独立して、地方ごと、教会ごとに独自の特色をもって典礼が行われ、聖歌が歌われるようになりました、こうした中でローマ・カトリック教会が圧倒的な勢力になっていきます。七世紀に教皇グレゴリウス一世が各地の教会で独自に行われている典礼をローマ・カトリック教会の典礼に準ずるように典礼の改革を図りました。しかしこれが実現するのはカール大帝の時代で九世紀になってからです。

注1：トラレスで発見されたセイキロスの譜例

$\text{C} \quad \bar{\text{Z}} \quad \bar{\text{Z}} \quad \text{KIZ} \quad \bar{\text{I}}$
—— リズムを示す
—— 音高を示す
 Ὀσων ζῆς, φαίνου,
—— 歌詞

注2：ピュタゴラス = ピタゴラス

Pythagoras (英文)

紀元前 582 年～ 496 年

古代ギリシャの数学者、哲学者でプラトンにも影響を与えています。数学の『ピタゴラスの定理』の定理でも有名です。彼は、ピタゴラス派は8と言う数字が12で割り切れないことも知っていました。



新年快乐

godt nytt år

bonne année

Feliz Ano Novo

С Новым Годом

šťastný nový rok

Feliz Año Nuevo

felice anno nuovo

Frohes Neues Jahr

Gelukkig Nieuwjaar

próspero año nuevo

felix sit annus novus

Heri Za Mwaka Mpya

새해복 많이 받으세요

A HAPPY NEW YEAR 2012

USACO CORPORATION

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

予約受付中の見本市（2011年12月現在）

★ *BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR*

開催時期：2012年 3月19日～3月22日 開催地：ボローニャ（イタリア）
旅行代金：¥198,000～ <3/18出発 4泊6日 モデルパターン>
GRAND HOTEL ELITE 滞在
その他、HOTEL ROYAL CARLTON などの利用プランがございます。

★ *LONDON BOOK FAIR*

開催時期：2012年 4月16日～4月18日 開催地：ロンドン（英国）
旅行代金：¥159,000～ <4/15出発 3泊5日 モデルパターン>
※KENSINGTON CLOSE HOTEL & SPA 滞在

★ *LE SALON DU LIVRE (PARIS BOOK FAIR)*

開催時期：2012年 3月16日～3月19日 開催地：パリ（フランス）
旅行代金：¥149,000～ <3/15出発 3泊5日 モデルパターン>
※HOTEL CASTIGLIONE 滞在

★ *BOOK EXPO AMERICA*

開催時期：2012年 6月5日～6月7日 開催地：ニューヨーク（米国）
※視察プラン企画（手配・お見積もり受付中）

★ *FRANKFURT BOOK FAIR*

開催時期：2012年 10月10日～10月14日 開催地：フランクフルト（ドイツ）
※視察プラン企画（手配・お見積もり受付中）
※MOVENPICK MESSE HOTEL など見本市会場付近のホテルを始め、
市内ホテルを多数確保しております。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）	FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）
PARIS BOOK FAIR（パリ）	HONG KONG BOOK FAIR（香港）
BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）	BEIJING BOOK FAIR（北京）
BOOK EXPO AMERICA（ニューヨーク）	TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（観光庁長官登録旅行業第1359号）

TEL: 03-3402-9955 / FAX: 03-3402-9698 担当：藤代

URL: www.jw-trvl.co.jp / E-mail: tet@jw-trvl.co.jp

その他、早割り航空券やビジネスクラス・デイズガットの手配や国内出張なども取り扱っております。